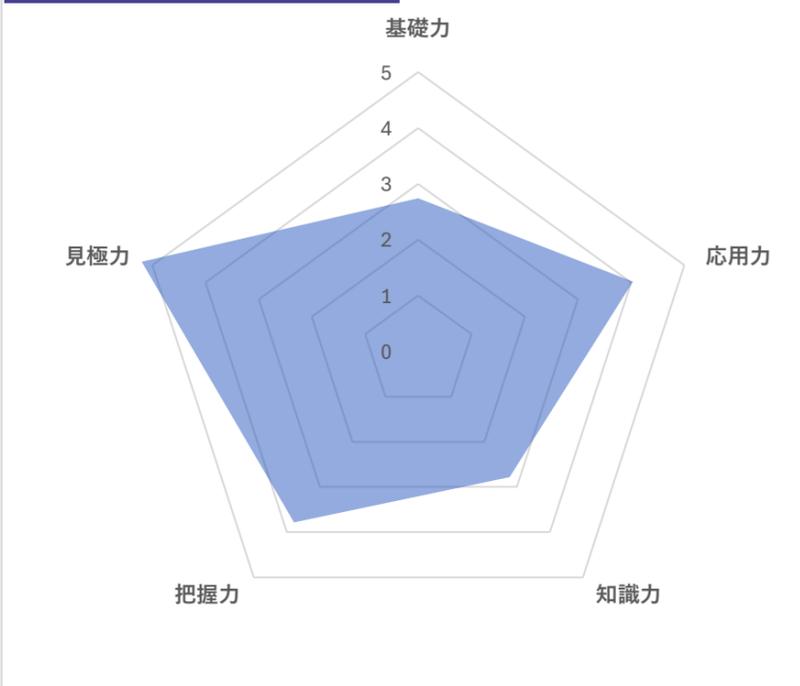


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 5 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)



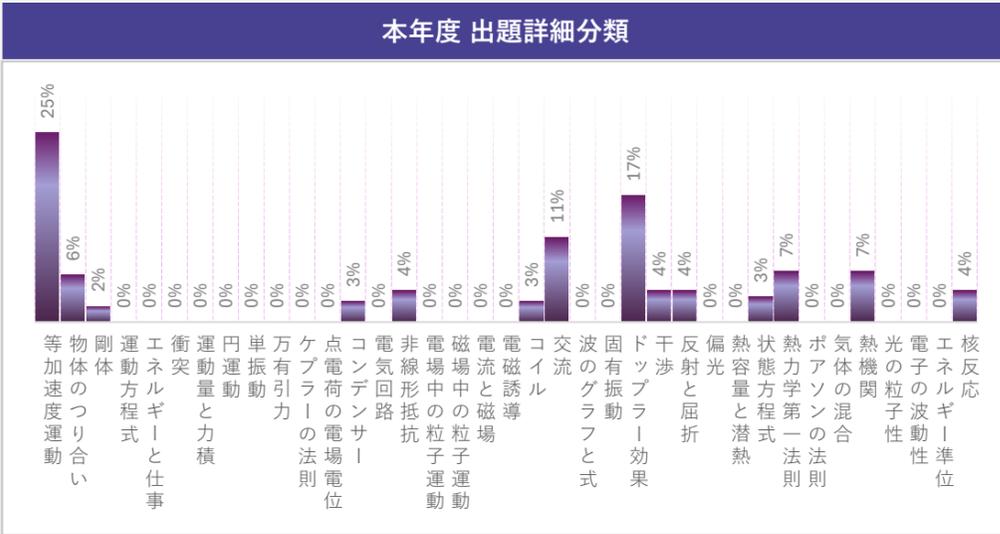
合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.5	原理についての理解
応用力	3.8	演習経験による慣れ
知識力	2.6	用語を正確に覚えているか
把握力	3.6	臨機応変に状況を把握する力
見極力	5.0	解きやすい問題を選択する力

特記事項 高い数学力を要する。

出題分野	
力学	33%
電磁気学	21%
波動	25%
熱力学	17%
原子物理	4%

本年度 解答形式	
選択肢	100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	小問集合
第 2 問	斜方投射されて斜面に衝突する物体の運動
第 3 問	ドップラー効果
第 4 問	RLC直列交流回路
第 5 問	熱サイクル



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価			
難度	3.5	最難を 5 とする問題自体の難度	やや難しい
分量	110分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	多い
一次合格に必要な正答率 (予想)			42%
正答率をさほど要さない			

**入試の特徴と対策**

- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

**入試から見る 大学が求める学生像**

例年通り分量が極めて多く、すべて解き終えることは想定されていない。解きやすい大問、設問を選択する見極力が必須である。逆に言えば、不得意な分野を避けても十分合格点に達することができる。個々の設問に関して言えば、最低限の物理の能力を有することは前提として、数学を物理に使いこなすことが要求されている。計算ミスによって辿り着く誤答選択肢がほぼすべて用意されており、選択肢に救われることがない。総じて、満遍なく卒なくこなすより、得意分野を磨くような学習をしてきた学生が求められている。